

# 合計特殊出生率とキャリア教育

中京大学 総合政策学部 大森ゼミ  
佐々木りお 服部ななせ 水谷朋花 吉岡千織

1.Facts

2.先行研究

3.回帰分析・理論

4.リサーチクエスチョン

5.政策

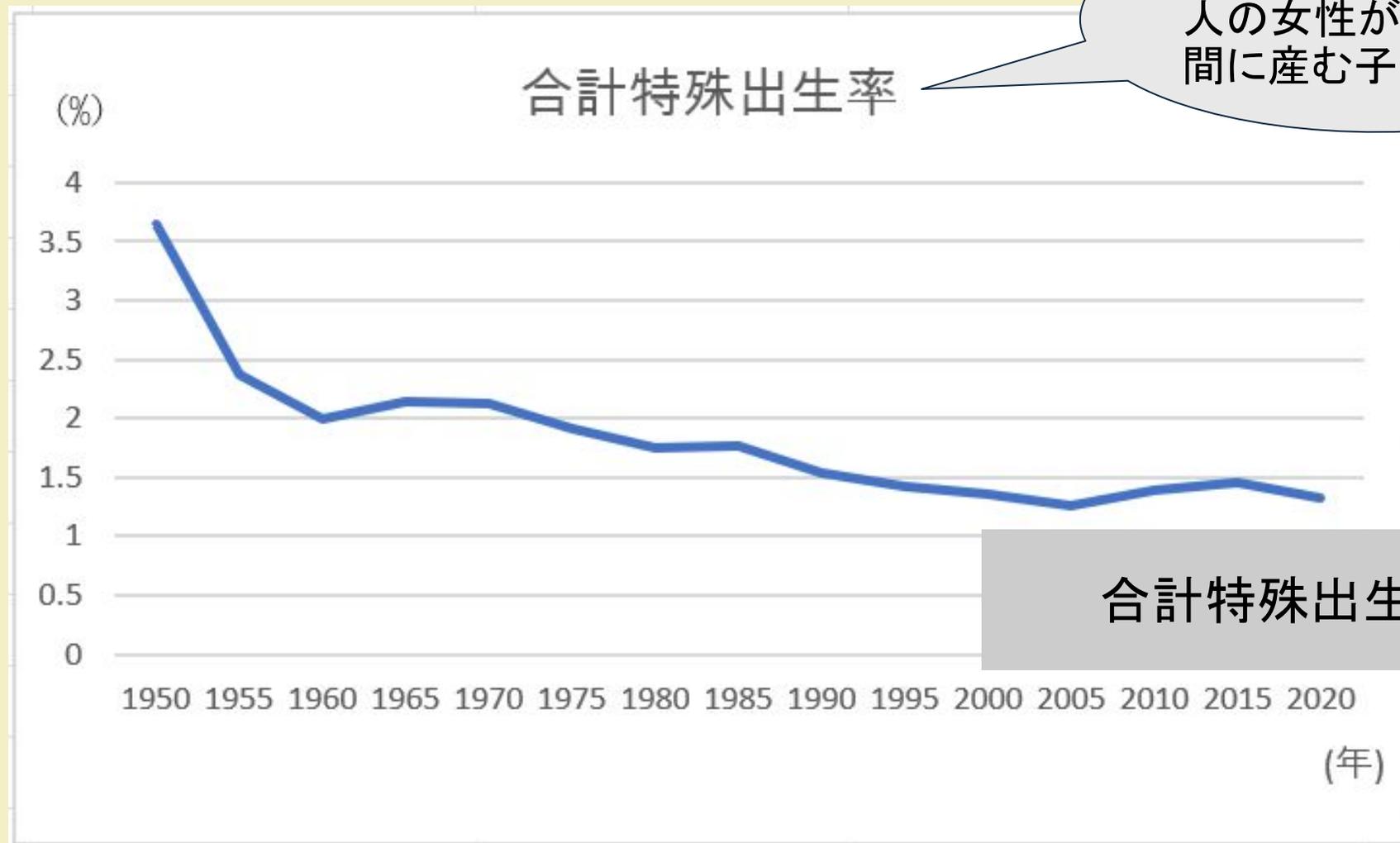
6.ヒアリング

7.結び

# 1.Facts

# 合計特殊出生率の推移

5歳から49歳までの1人の女性が一生の間に産む子供の数



合計特殊出生率は低下している

## 2. 先行研究

# 合計特殊出生率低下の要因

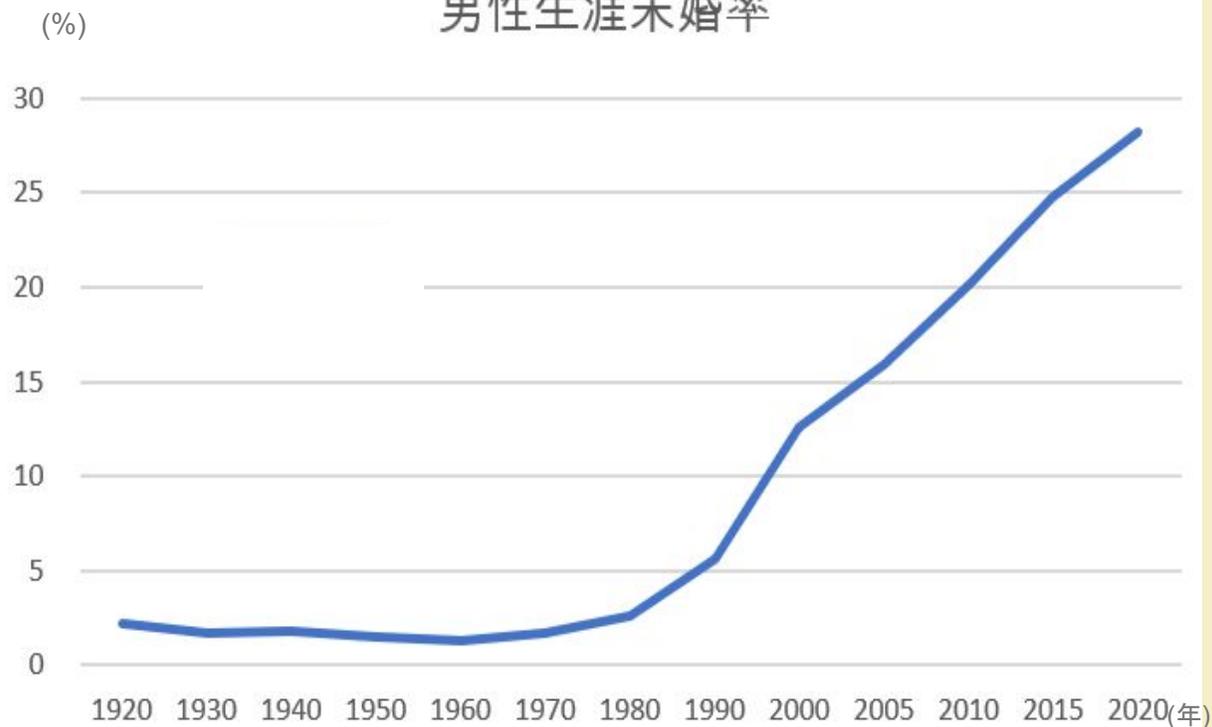
伊達と清水谷(2004)によると、1970年代以降の出生率低下の主な要因の1つに、未婚率の増加があるとした。

→合計特殊出生率の低下を未婚化に着目して研究する

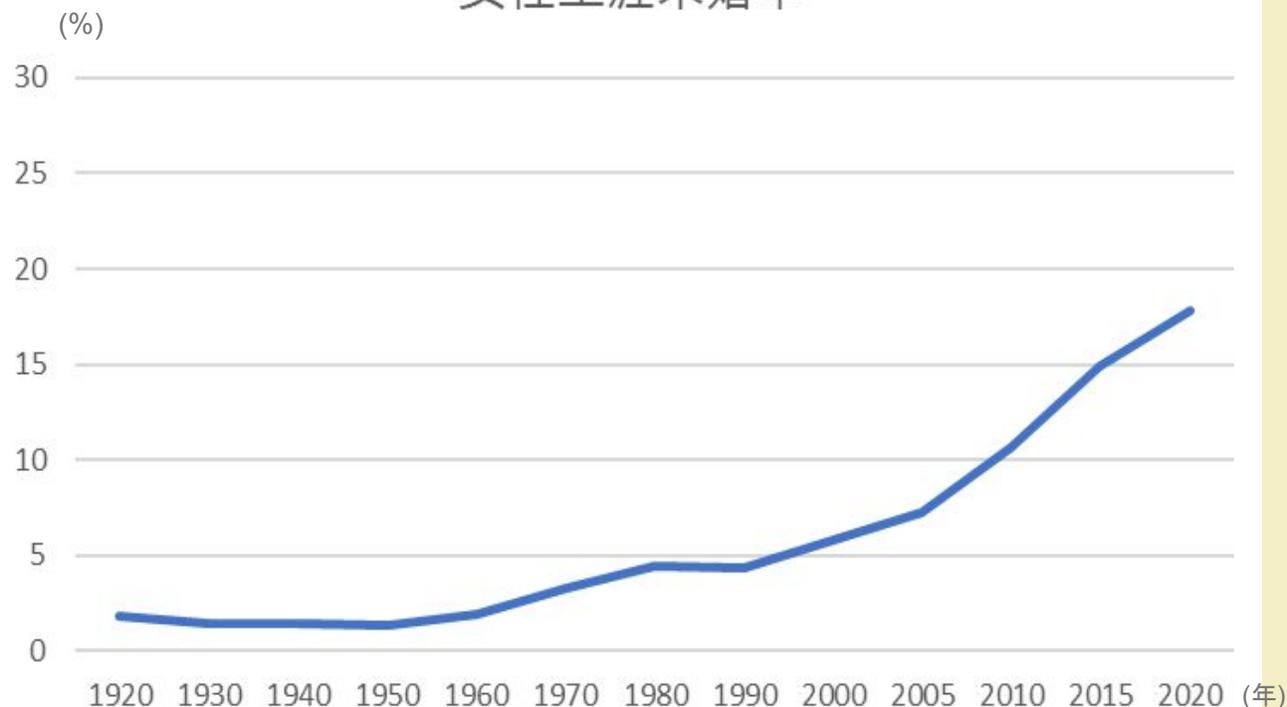
# 未婚化

生涯未婚率：50歳時点で一度も結婚をしたことのない人の割合  
45歳～49歳と50歳～54歳の未婚率の平均値

男性生涯未婚率



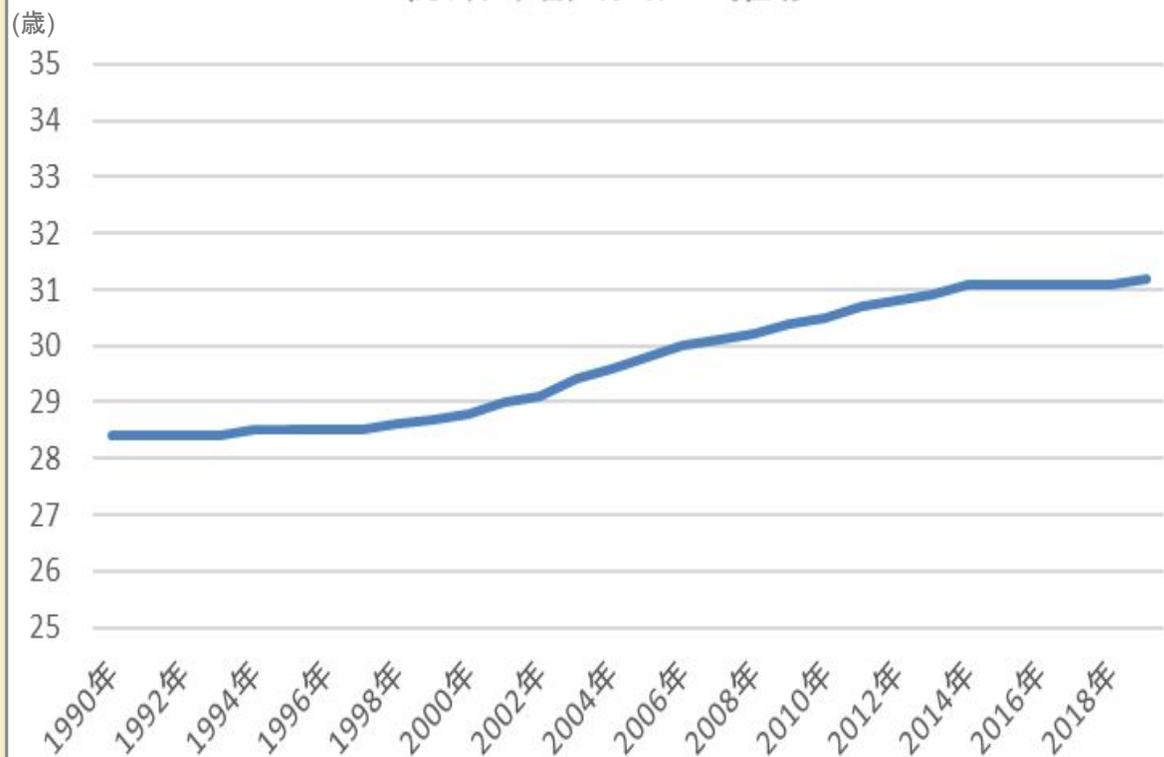
女性生涯未婚率



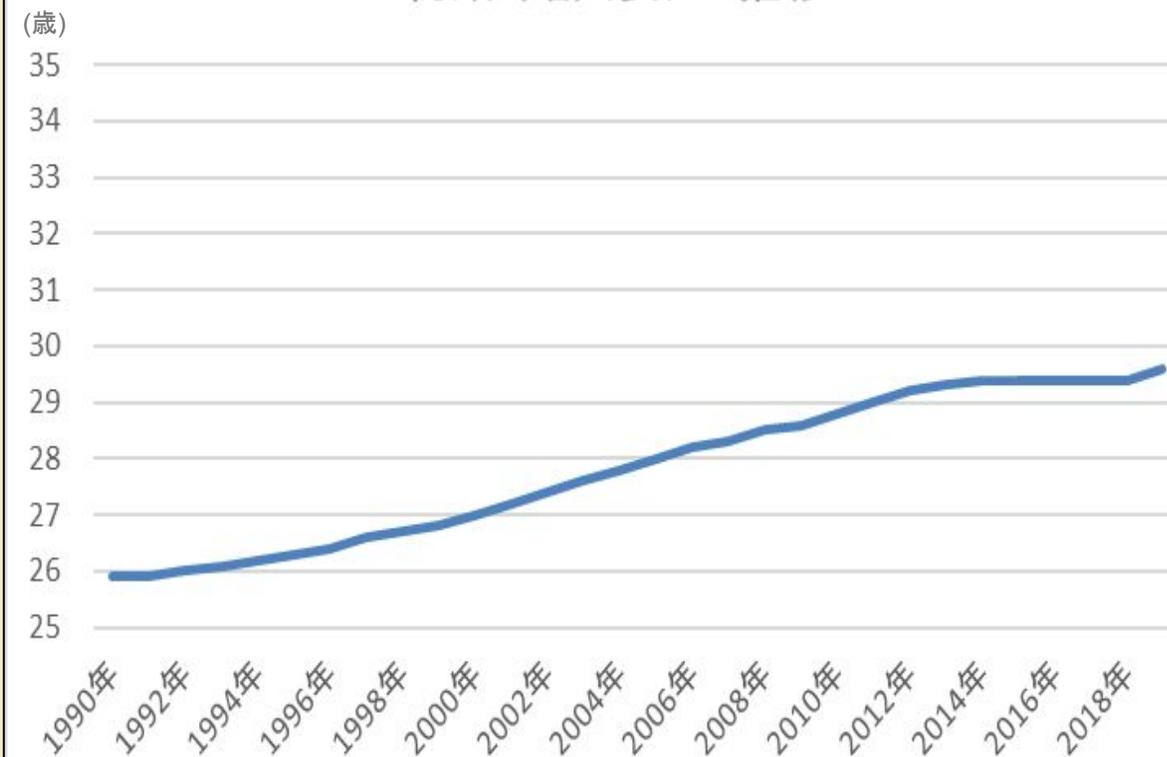
生涯未婚率は上昇している

# 平均初婚年齢の上昇

初婚年齢(夫)の推移

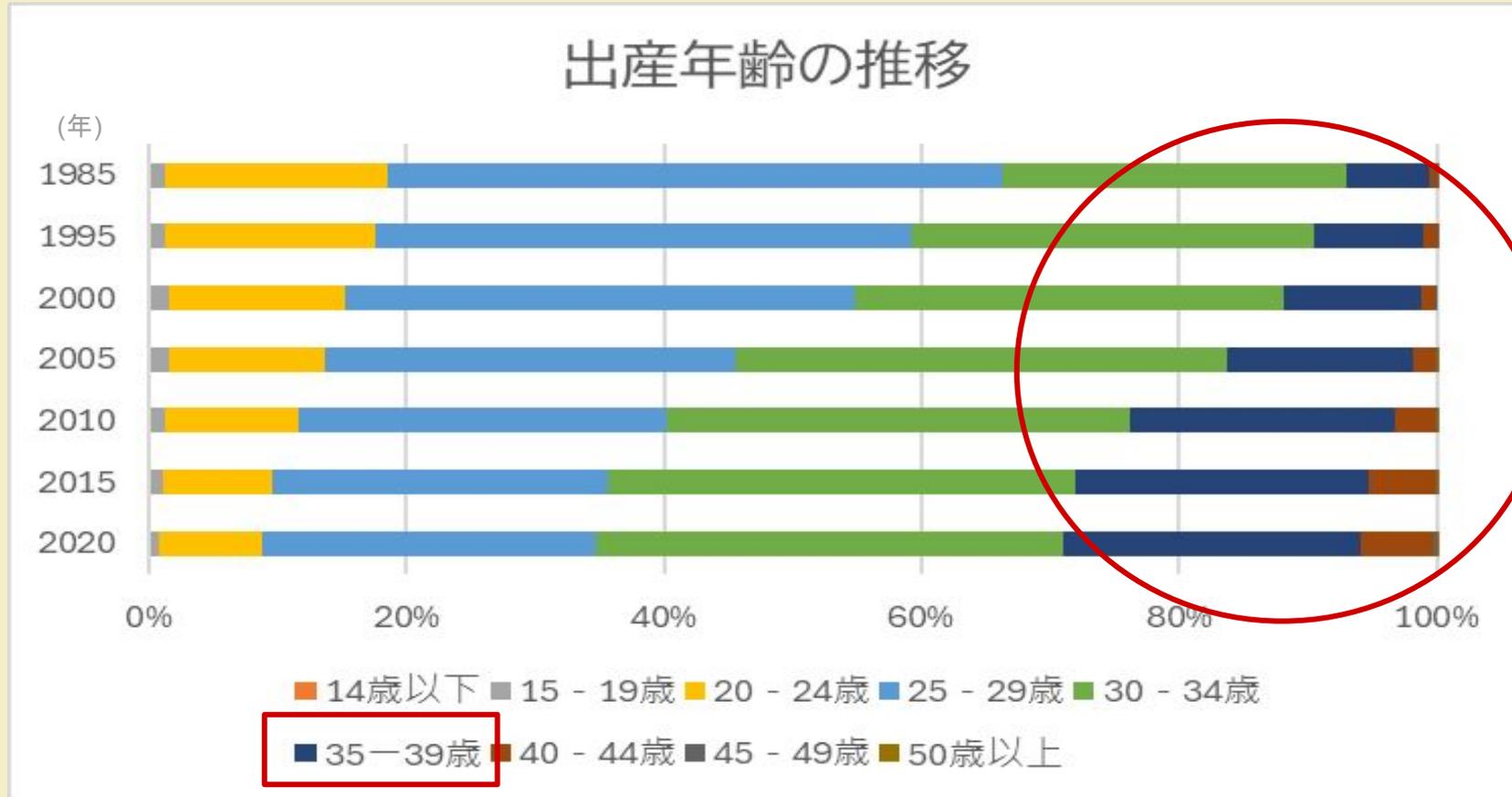


初婚年齢(妻)の推移



平均初婚年齢は上昇している

# 出産年齢の遅れ



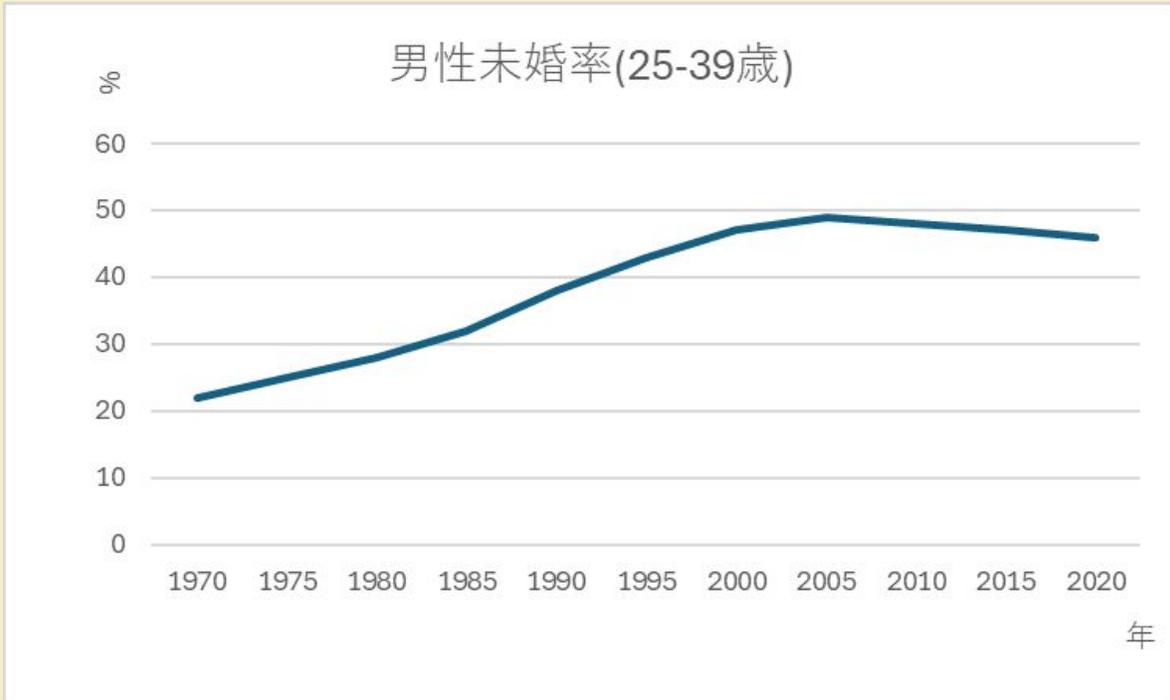
35-39歳で出産をする女性は増加している。  
→平均初婚年齢の遅れに伴い、出産年齢も遅れている。

# 合計特殊出生率に影響する年代の未婚率

- ・15-24歳は学生が含まれており、出産数が少ない
- ・母体年齢における出産率は39歳頃を境に急激に低下する

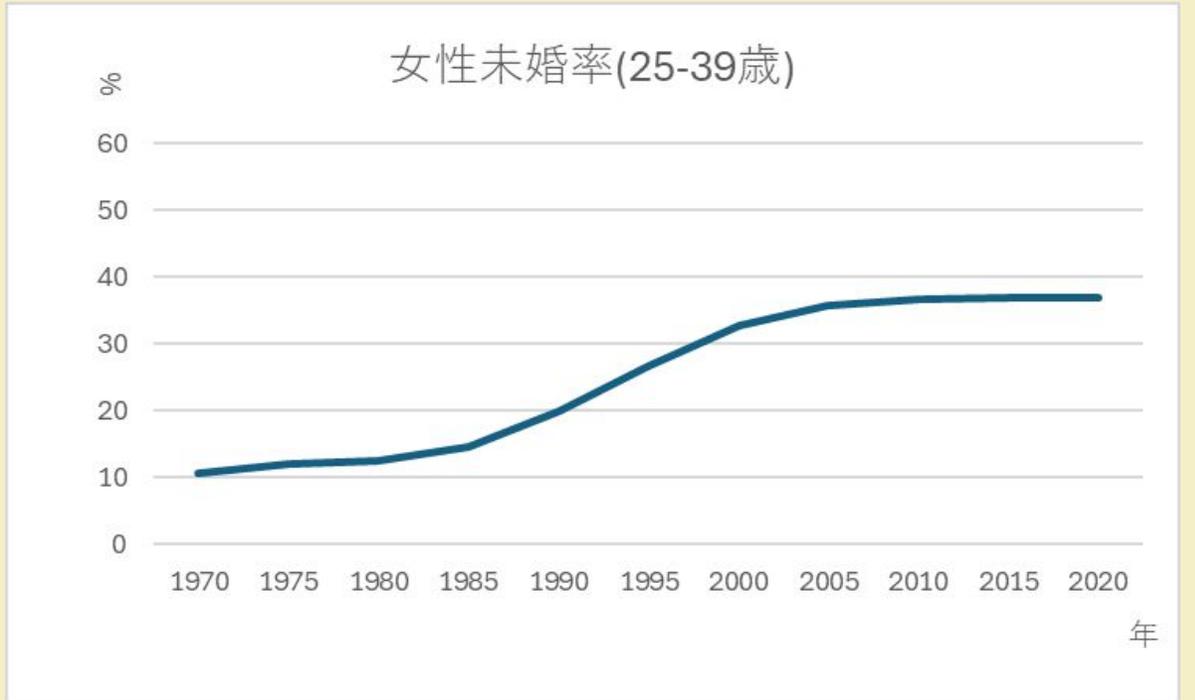
→25-39歳の未婚率に着目する

# 25-39歳男性未婚率の推移



25-39歳男性未婚率は上昇傾向にある

# 25-39歳女性未婚率の推移



25-39歳女性未婚率は上昇している

出典:「政府統計の総合窓口 (e-Stat)」統計データを探す>組織から探す>総務省>国勢調査>時系列データ>男女、年齢、配偶関係>第4表 配偶関係(4区分)>(5歳階級)  
>男女別15歳以上人口 - 全国(大正9年~令和2年)を元に加工して作成 (2024.0816閲覧)

政府統計の総合窓口 (e-Stat)」統計データを探す>組織から探す>総務省>国勢調査>時系列データ>男女、年齢、配偶関係>第4表 配偶関係(4区分)>年齢(5歳階級)  
>男女別15歳以上人口 - 全国(大正9年~令和2年)を元に加工して作成 (2024.0812閲覧)

# 3.回帰分析

# 合計特殊出生率と未婚率の関係を調べる分析

合計特殊出生率と男性未婚率(25-39歳) 1950~2020年(5年毎)

$y(\text{合計特殊出生率}) = 2.59406 - 2.64345 \times (\text{男性未婚率}(25-39\text{歳}))$   
t値: -11.7455 補正R2: 0.931953

5%有意

合計特殊出生率と女性未婚率(25-39歳) 1950~2020年(5年毎)

$y(\text{合計特殊出生率}) = 2.662351 - 0.03891 \times (\text{女性未婚率}(25-39\text{歳}))$   
t値: -3.87001 補正R2: 0.499589

5%有意

出典: [合計特殊出生率] 「政府統計の総合窓口 (e-Stat)」統計データを探す > 組織から探す > 人口動態調査 > ファイル > 人口動態統計・確定数 出生 第 4表-1 年次別に見た出生数・出生率(人口千対)・出生性比及び合計特殊出生率 (2024.0812閲覧)

[男性未婚率(25-39歳)] 「政府統計の総合窓口 (e-Stat)」統計データを探す > 組織から探す > 総務省 > 国勢調査 > 時系列データ > 男女、年齢、配偶関係 > 第4表 配偶関係(4区分) > 年齢(5歳階級) > 男女別15歳以上人口 - 全国(大正9年~令和2年)を元に加工して作成 (2024.0812閲覧)

[女性未婚率(25-39歳)] 「政府統計の総合窓口 (e-Stat)」統計データを探す > 組織から探す > 総務省 > 国勢調査 > 時系列データ > 男女、年齢、配偶関係 > 第4表 配偶関係(4区分) > 年齢(5歳階級) > 男女別15歳以上人口 - 全国(大正9年~令和2年)を元に加工して作成 (2024.0812閲覧)

# 未婚率上昇の要因

## <先行研究>

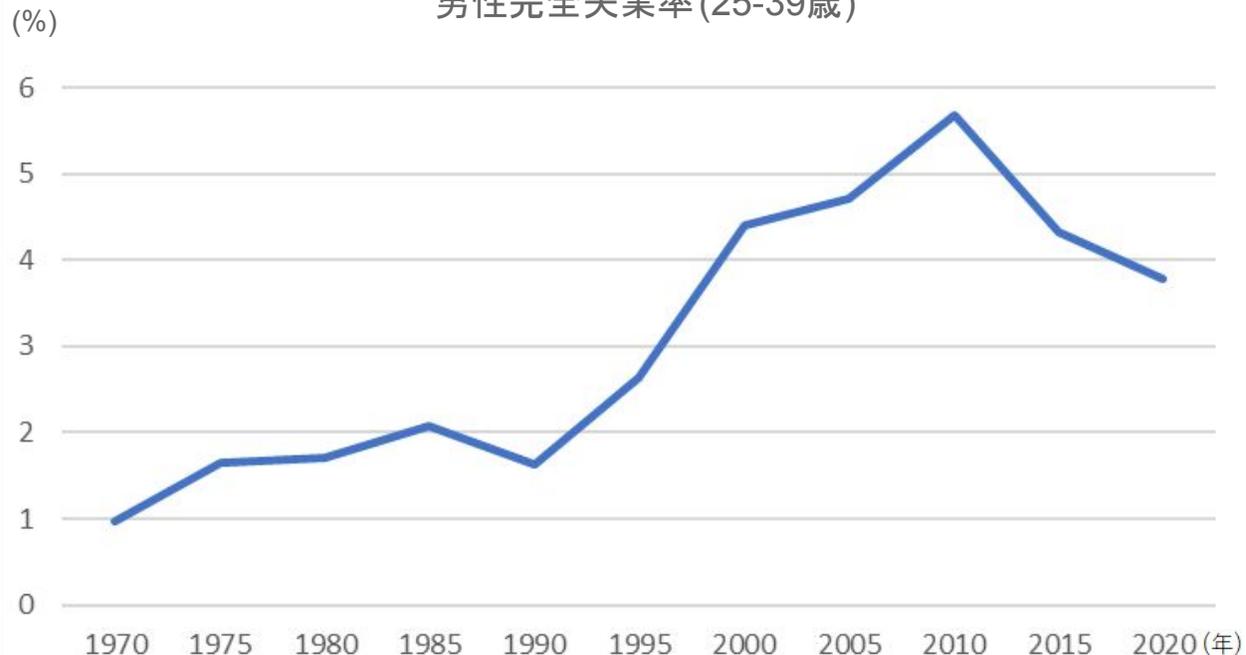
松田(2016)は、日本では、非正規雇用者や失業率の増加という若年雇用の悪化が未婚化をもたらすことを明らかにした。

→未婚率と若年層の完全失業率の関係を分析していく

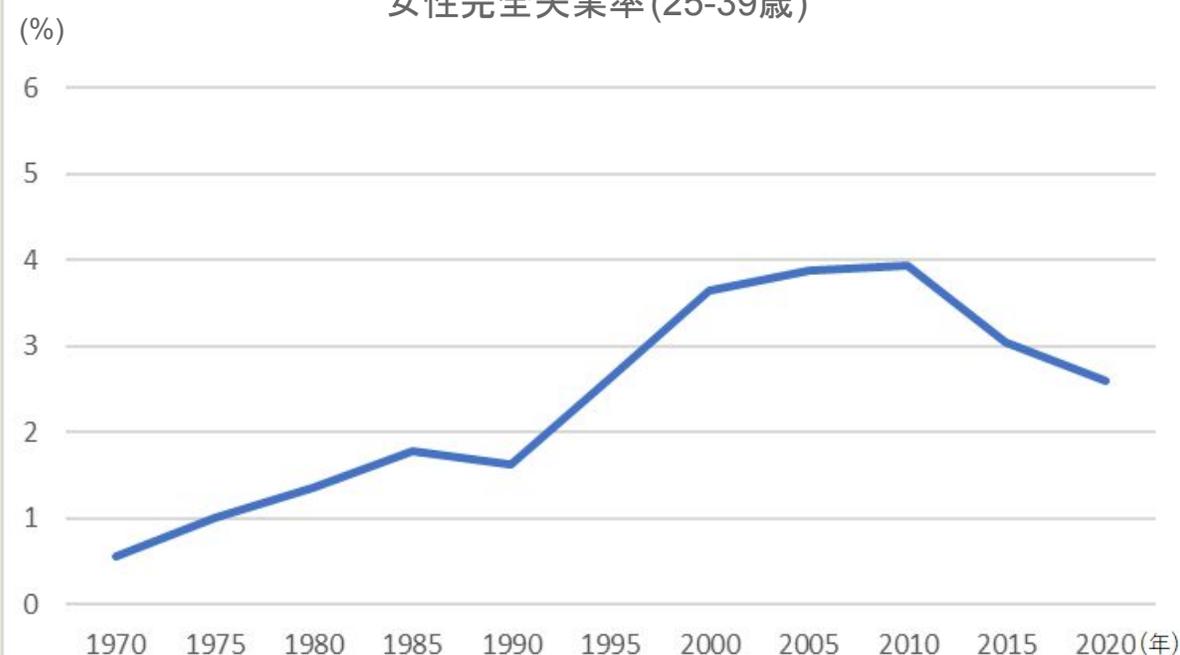
「労働力人口」に占める  
「完全失業者」の割合

# 完全失業率の推移

男性完全失業率(25-39歳)



女性完全失業率(25-39歳)



1970年に比べて、上昇傾向にある

# 完全失業率と未婚率の関係を調べる分析

男性完全失業率と男性未婚率(25-39歳) 1950~2020年(5年毎)

$$y_i(\text{男性未婚率}(25-39\text{歳}))=0.211525+0.057235x_i(\text{男性完全失業率}(25-39\text{歳}))$$

t値:5.9102785 補正R2:0.772372

5%有意

女性完全失業率と女性未婚率(25-39歳) 1950~2020年(5年毎)

$$y_i(\text{女性未婚率}(25-39\text{歳}))=4.416159+8.722995x_i(\text{女性完全失業率}(25-39\text{歳}))$$

t値:6.80524 補正R2:0.819205

5%有意

出典:[男性未婚率(25-39歳)]「政府統計の総合窓口(e-Stat)」統計データを探す>組織から探す>総務省>国勢調査>時系列データ>男女、年齢、配偶関係>第4表 配偶関係(4区分)>年齢(5歳階級)>男女別15歳以上人口 - 全国(大正9年~令和2年)を元に加工して作成(2024.0812閲覧)

[男性完全失業率(25-39歳)]「政府統計の総合窓口(e-Stat)」統計データを探す>ファイル>労働力調査>基本集計 全都道府県>長期時系列データ>表番号3-4 年齢階級(5歳階級)別完全失業者数及び完全失業率(2024.0813閲覧)  
「政府統計の総合窓口(e-Stat)」統計データを探す>ファイル>労働力調査>基本集計 全都道府県>長期時系列データ>表番号3-2 年齢階級(5歳階級)別労働人口及び労働力人口比率をもとに加工して作成(2024.0813閲覧)

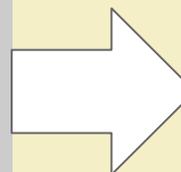
[女性未婚率(25-39歳)]「政府統計の総合窓口(e-Stat)」統計データを探す>組織から探す>総務省>国勢調査>時系列データ>男女、年齢、配偶関係>第4表 配偶関係(4区分)>年齢(5歳階級)>男女別15歳以上人口 - 全国(大正9年~令和2年)を元に加工して作成(2024.0812閲覧)

[女性完全失業率(25-39歳)]「政府統計の総合窓口(e-Stat)」統計データを探す>ファイル>労働力調査>基本集計 全都道府県>長期時系列データ>表番号3-4 年齢階級(5歳階級)別完全失業者数及び完全失業率(2024.0813閲覧)  
「政府統計の総合窓口(e-Stat)」統計データを探す>ファイル>労働力調査>基本集計 全都道府県>長期時系列データ>表番号3-2 年齢階級(5歳階級)別労働人口及び労働力人口比率をもとに加工して作成(2024.0813閲覧)

男性完全失業率と女性未婚率(25-39歳) 1950~2020年(5年毎)

$$y_i(\text{女性未婚率}(25-39\text{歳})) = -0.20339 + 0.129882x_i(\text{男性完全失業率}(25-39\text{歳}))$$

t値: 7.350626 補正R2: 0.84135

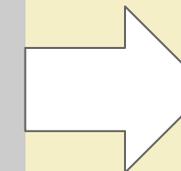


5%有意

女性完全失業率と男性未婚率(25-39歳) 1950~2020年(5年毎)

$$y_i(\text{男性未婚率}(25-39\text{歳})) = 0.194281 + 0.081064x_i(\text{女性完全失業率}(25-39\text{歳}))$$

t値: 8.616748 補正R2: 0.879877



5%有意

出典:[女性未婚率(25-39歳)]「政府統計の総合窓口(e-Stat)」統計データを探す>組織から探す>総務省>国勢調査>時系列データ>男女、年齢、配偶関係>第4表 配偶関係(4区分)>年齢(5歳階級)>男女別15歳以上人口 - 全国(大正9年~令和2年)を元に加工して作成(2024.0812閲覧)

[男性完全失業率(25-39歳)]「政府統計の総合窓口(e-Stat)」統計データを探す>ファイル>労働力調査>基本集計 全都道府県>長期時系列データ>表番号3-4 年齢階級(5歳階級)別完全失業者数及び完全失業率(2024.0813閲覧)  
「政府統計の総合窓口(e-Stat)」統計データを探す>ファイル>労働力調査>基本集計 全都道府県>長期時系列データ>表番号3-2 年齢階級(5歳階級)別労働人口及び労働力人口比率をもとに加工して作成(2024.0813閲覧)

[男性未婚率(25-39歳)]「政府統計の総合窓口(e-Stat)」統計データを探す>組織から探す>総務省>国勢調査>時系列データ>男女、年齢、配偶関係>第4表 配偶関係(4区分)>年齢(5歳階級)>男女別15歳以上人口 - 全国(大正9年~令和2年)を元に加工して作成(2024.0812閲覧)

[女性完全失業率(25-39歳)]「政府統計の総合窓口(e-Stat)」統計データを探す>ファイル>労働力調査>基本集計 全都道府県>長期時系列データ>表番号3-4 年齢階級(5歳階級)別完全失業者数及び完全失業率(2024.0813閲覧)  
「政府統計の総合窓口(e-Stat)」統計データを探す>ファイル>労働力調査>基本集計 全都道府県>長期時系列データ>表番号3-2 年齢階級(5歳階級)別労働人口及び労働力人口比率をもとに加工して作成(2024.0813閲覧)

# 重回帰分析

男女の未婚率と合計特殊出生率

$y(\text{合計特殊出生率}) = 2.783742 + 0.011582x_1(\text{女性未婚率}(25-39\text{歳})) - 3.88638x_2(\text{男性未婚率}(25-39\text{歳}))$

t値: 女性未婚率 1.592204 男性未婚率 -4.81061

補正R2: 0.879877

5%有意

男女の完全失業率と合計特殊出生率

$y(\text{合計特殊出生率}) = 2.070148 - 0.34499x_1(\text{女性完全失業率}(25-39\text{歳})) - 0.104769x_2(\text{男性完全失業率}(25-39\text{歳}))$

t値: 女性完全失業率 -2.87996 男性完全失業率 1.169619

補正R2: 0.794861

5%有意

# 重回帰分析

男女の未婚率と合計特殊出生率

$y(\text{合計特殊出生率}) = 2.805255 + 0.009491x_1(\text{女性完全失業率(25-39歳)}) - 3.99359x_2(\text{男性完全失業率(25-39歳)}) + 0.011114x_3(\text{女性未婚率(25-39歳)}) + 0.015072x_4(\text{男性未婚率(25-39歳)})$

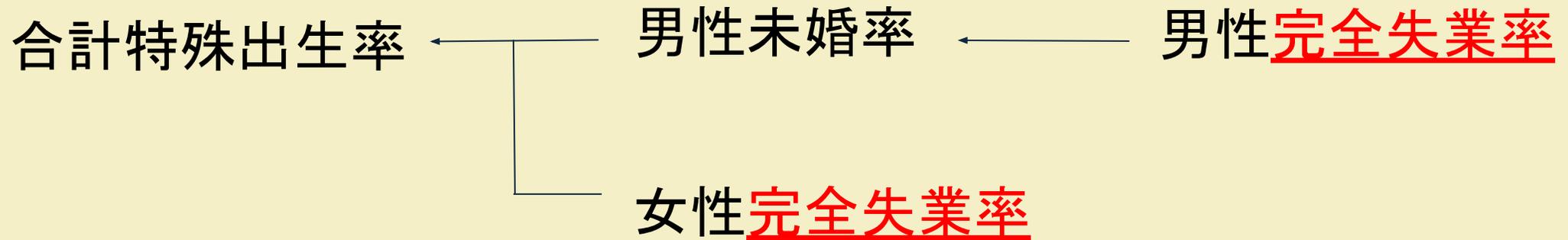
t値: 女性完全失業率 0.066639 男性完全失業率 0.138879

女性未婚率 0.580679 男性未婚率 **-1.94993**

補正R2: 0.926230354

10%有意

# 回帰分析の結果から



男性・女性ともに完全失業率が合計特殊出生率に影響している

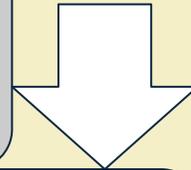


完全失業率を下げるためには？

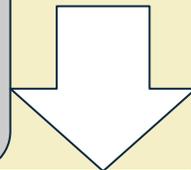
# 完全失業率を下げるには？

雇用のミスマッチを解決する

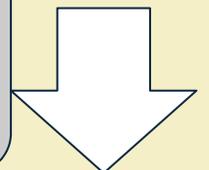
※求職者側のスキルや雇用条件と企業のニーズが合わないこと



自分に合う仕事に就くことで、失業率を下げる



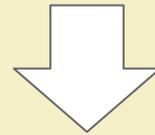
自分に合う仕事を見つけるには、どうするべきか？



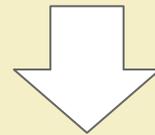
**若年層からのキャリア教育**

# キャリア教育を提唱するのはなぜ？

新規学卒者のフリーター志向の広がり、  
若年無業者の増加、若年者の早期離職傾向などが問題



学校教育と職業生活との接続に課題がある



キャリア教育の提唱

# キャリア教育の目的

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す。

情報収集能力

選択能力

職業理解能力

# キャリア教育を行う時期

- 実社会に出て働くことの意味を考える
- どんな職業があるのかを知り、どんな職業に就きたいのかを考える

キャリア教育を**小学校段階**から発達段階に応じて実施する必要がある。

## 4. リサーチクエストション

キャリア教育は合計特殊出生率に  
影響を及ぼすか？

# 仮説

キャリア教育



完全失業率↓



未婚率↓



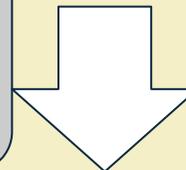
合計特殊出生率↑

## **5. 私たちが考えるキャリア教育**

# キャリア教育の段階

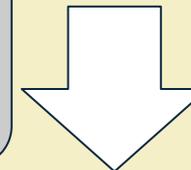
## 低学年(1.2年生)

- 自分の好きなこと、得意なことを知る
- 自分の気持ちや意見を伝える
- 自分の良いところを見つけ、自信をもつ



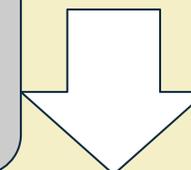
## 中学年(3.4年生)

- 生徒自身で将来について擬似体験をし、人生を選択することでキャリアプランをイメージできるようにする



## 高学年(5.6年生)

- 規範意識を持ち、社会におけるルールや相手との約束を守るなど信頼される行動をする
- 人のために働くことの良さを学ぶ



## 中学生

- 様々な人との関わりを通じて、勤労観・家庭観を形成する

# 9年間のゴール

- ・仕事に対して興味を持つ
- ・人間関係を形成できる
- ・将来の夢や目標の獲得
- ・人のために働くことの良さを理解する

→現在のキャリア教育を補う政策を考えていく

低学年(1.2年生)

# 求められる能力

- 自分の好きなことが言える
- 自分の気持ちや意見を伝える
- 自分の良いところを見つけ、自信をもつ
- 友達の気持ちを考える
- 身近な人々の生活に関心をもち、積極的に関わる



# 実践例：友達いっぱいー学級のともだちと仲良くなろうー

家庭	内容	指導上の配慮事項と評価
導入	1.自分の好きなものを発表する 2.自己紹介カードを作る	・好きなものはなんでもいいと教え、のびのびと発言できるようにする
展開	3.自己紹介カードを使ってゲームをする →曲に合わせて歩き、止まったところで自己紹介するを繰り返す。	・曲が止まった時に近くにいる児童同士で自己紹介ができるよう見守る。 ※控えめな児童やなかなか言い出せない児童には寄り添いながらともに活動する。
まとめ	4.楽しかったことを発表する →「〇〇が一緒にうれしかった」など 5.次は「学校中のいろいろな人々と仲良し」になることを知る	・新しい発見や楽しかったことを紹介して仲良くなれた喜びが味わえるようにする。 ・楽しく活動し、友達と仲良くしていこうとする気持ちを持つ  ◎ 1 単位15 分くらいの活動のまとまりをつくり児童の様子を見ながら活動意欲を持続させていくことが大切

# 実践例に対する問題点

- ・互いに発表しあっているだけの状態であり、対話が不足している
- ・時間いっぱい話すなどのルールが決められていない
- ・目を見て話す・相槌を打つなどの相手への敬意が不足している



# 提案するキャリア教育

## 内容

ペア対話やグループ共有

## 詳細

帰りの会に3分ほどの時間を設け、先生が指定したお題に対し自分の意見を発信し、仲間と交流する

## 例

- 将来どんな大人になりたいか
- 将来どんな職業に就きたいか
- 趣味、最近楽しかったこと
- 今日見つけた相手のいいところ など

## 条件

- 時間いっぱい話す
- 相手の気持ちを考える(相手の目を見て話す、うなづく、返事をする)
- 感想を言う  
などの約束事を作る

## 効果

- 対話によってコミュニケーション能力を身につける
- 対話に積極的に参加することや自分の話に対してリアクションしてもらうことで自分の意見に自信を持つことができる
- 自分を知ることに繋がる

中学年(3.4年生)

# 求められる能力

- いろいろな職業や生き方があることが分かる
- 将来の夢や希望をもつ
- 計画づくりの必要性に気づき、作業の手順が分かる
- 自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする





# 実践例に対する問題点

・毎年学期ごとに目標を立てているだけでは、将来の人生設計についてイメージがつかない、見通しが利かない

→いろいろな職業や生き方があることを知ったり、将来の夢や希望を持ったりする能力が養われてない



# 提案するキャリア教育

## 内容

未来体感ゲーム(総合の授業)

## 詳細

1年をかけて、家庭科や道徳の授業で学んだことを活かして、グループでマスを作成し、互いに意見を出し合うことで、そのマスの項目について理解を深める。  
また、作成したマスで実際に遊ぶことで、人生には様々な選択があることを学ぶ。

## 効果

- 実際にゲームで自分のライフプランをイメージして、様々な職業や生き方があることを知ることができる
- 自分の人生をイメージし、未来に夢や希望を持つことができる

# 未来体感ゲーム

項目	内容
職業選択	職業・職種、業務内容、年収、勤務地、雇用形態
結婚か未婚	結婚することと未婚のそれぞれのメリット、デメリット
マイホーム建てるか建てないか	家を建てるのにかかる費用
子供を産むか産まないか	子供の人数、養育費、教育費
進学or就職	進学と就職の違い

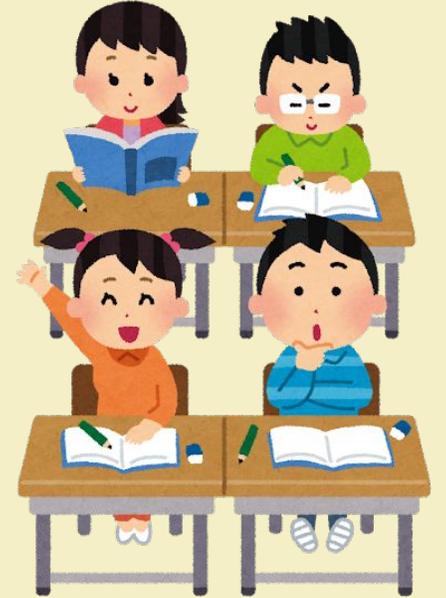
高学年(5.6年生)

# 求められる能力

○規範意識を持ち、社会におけるルールや相手との約束を守るなど信頼される行動を取ろうとする

○施設・職場見学等を通し、働くことの大切さや苦勞が分かる

○思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする



# 実践例①: 工場生産を支える人々

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価
導入	1.車体工場や組み立て工場を見学して気づいたことを発表する	○ロボットが主に作業していたところと、人が主に作業していたところがあったことに気づかせる
展開	2.見学メモや資料からそれぞれに役割がある理由を考える	○いかに機械化やロボット化が進もうと、最終的には働いている人たちの仕事に対する責任と誇り、チームワークによって良い製品が生まれることに気づかせる
まとめ	3.課題に対するまとめを書く	○よりよい製品を生み出すことが働く人たちの誇りにも繋がっていることをまとめとする

# 実践例②：働くことの意義

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価
導入	1.職業人と関わった経験について話し合う	○学校内外の職業人と関わった体験活動を想起させ、社会には様々な職業があることや出会った人物の思いを確認する
展開	2.資料『母の仕事』を読み、「お母さん」の仕事に対する考えについて話し合う →「お母さん」が体は疲れても、仕事を続けている理由は何か 3.「働くことの意義」についてまとめる	○働くことによって得られる喜びや満足感について母親が語る言葉をもとに考えさせる
まとめ	4.自分の体験から、働くことによって自分が成長したり、喜びを感じたりすることや自分がやってみたいことについて話し合う	○互いの経験や考えを聞き合うことにより、「働くことの意義」について視野を広げさせる

# 実践例に対する問題点

- ・働くことの大切さや苦勞などを理解することができていない
- ・社会におけるルールを守るなどの規範意識が養われていない
- ・家庭観(周りの人のために働くことの良さ)を養う教育ができていない



# 提案するキャリア教育①

## 内容

職場見学+α

## 詳細

- 職場までの経路計画や時間管理を行う
- 役割探し
- 家族へのインタビュー

## 効果

- 職場体験先までの行き方や、時間管理などを行うことで規範意識を育むことができる
- 家族へのインタビューから、働くことの大切さや苦勞を学ぶことができる

# 提案するキャリア教育②

## 内容

地域の高齢者との関わり

## 詳細

- 1: コミュニティーセンターで困りごとのヒアリング
- 2: お悩みを解決するために、計画を立てる
- 3: お悩みを解決することで、人の為に働くことの意義を見出す

## 効果

相手の立場に立って課題を解決することで、思いやりの気持ちや、人のために働くことの良さを学ぶことができる

中学生

# 求められる能力



- 自己肯定感の醸成と自己有用感の獲得
- 体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な想いが分かる
- 将来の夢や職業を思い描き、自分のふさわしい職業や仕事への  
関心・意欲を高める
- 自己の個性や興味関心等に基づいて、より良い選択をしようとする
- 様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える

# 中学生キャリア教育の意義

- 自己理解を深め、望ましい勤労観を育成することができる
- 異世代間を含めたコミュニケーション能力の向上を図ることができる
- 実際的な知識や技術を学び、社会的なルールやマナーを体得することができる
- 社会の構成員として、共に生きる心を養い、社会奉仕の精神を養うことができる

# 問題点

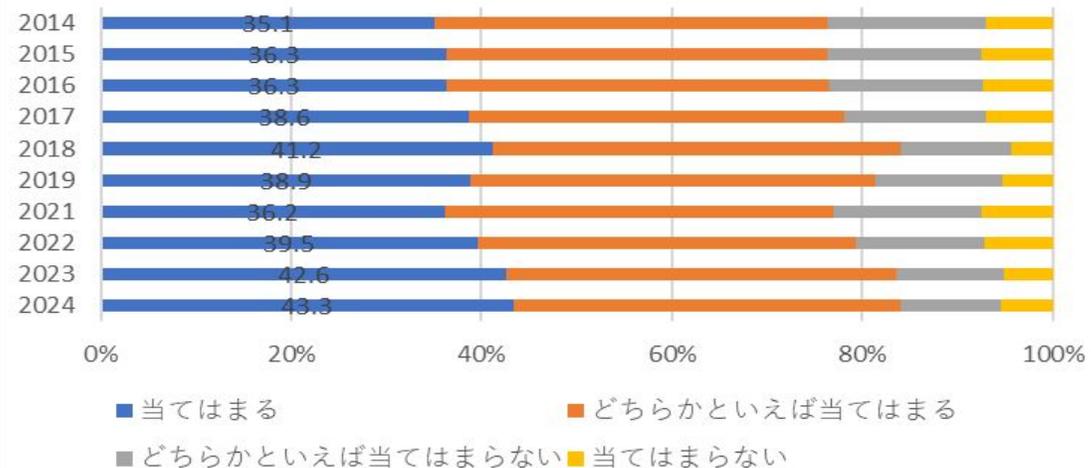
- ・自己肯定感、自己有用感が養われていない

→自分は社会に貢献できる人間であるということを自覚し、  
社会の為に役立とうとする能力が養われない

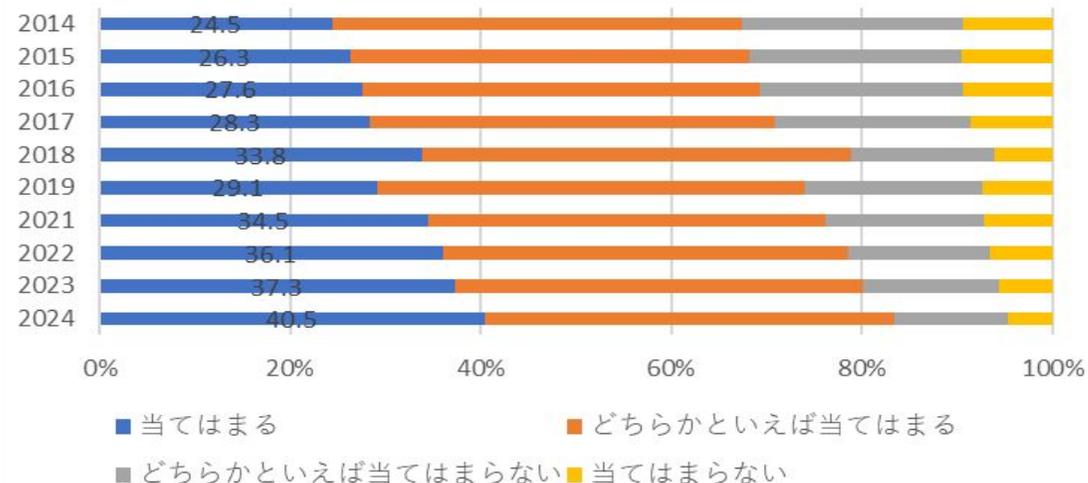


# Q.自分には良いところがあると思いますか？

## 小学生



## 中学生



# 提案するキャリア教育

## 内容

職場体験の事前学習

## 詳細

- 総合の授業で自分を知るためにエントリーシートを作成し、それをもとに自分に合う職場体験場所を決める
- 自分の家族がどのように社会の役に立っているかをインタビューする

## 効果

- エントリーシートを作成し、今までに自分がどのような場面で社会の役に立ってきたかを知ることによって、自己肯定感・自己有用感を養う
- 実際に家族にインタビューをすることで、「自分も役に立ちたい」という勤労観や「自分の家族を持ち支えたい」という家庭観を養う

# エントリーシート

エントリーシート		年	月	日	現在
ふりがな					
氏名					
年		月	日生	(満	歳)
ふりがな		※性別 (任意)			
中学校名					
中学校の連絡先					
年	年齢	自分史			
家族の手伝いや委員会・部活動など様々な場面で、自分がどのように活躍し、社会の役に立てきたかを考える					

職場体験を（会社名）でしたい理由と、学びたいこと

趣味や特技

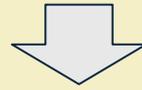
★自分の好きなところ・良いところ（具体的なエピソードを入れて）

★自分が将来どのように社会の役に立ちたいか

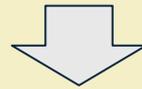
家族へのインタビューで養った勤労観や家庭観をもとに考える

# 以上の政策を行うことで、

勤労観・家庭観・自己肯定感・自己有用感を養う



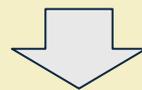
雇用のミスマッチが減る



完全失業率が下がる



未婚率が下がる



合計特殊出生率が上がる

自分が社会・周りの人に必要とされていて、支えられていることを知ることで、  
自分も家族を持って人を支える側になろうと思う

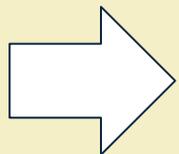
## 6.ヒアリング

# ヒアリング結果



こども家庭庁 長官官房少子化対策室 少子化対策調整係 馬場様,望月様,加藤様にお話を伺った  
(2024.10.31 11時~11時30分 Google Meetにて)

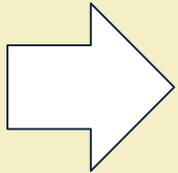
- ・ 政策については**賛成**
- ・ 自己肯定感・自己有用感が高まると、他人のことも尊重できるため結婚につながる
- ・ キャリア教育は就業だけでなく人生設計についても含まれているため、その必要性を若い人たちに理解してもらうことは重要である



私たちの考えた政策は、**実現可能性がある**と考える

## 指摘点

キャリア教育を考えるにあたって、人生はいつでもプランを描きなおすことはできるので、社会に出てから自分らしく柔軟に考えていくことが大切



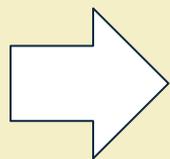
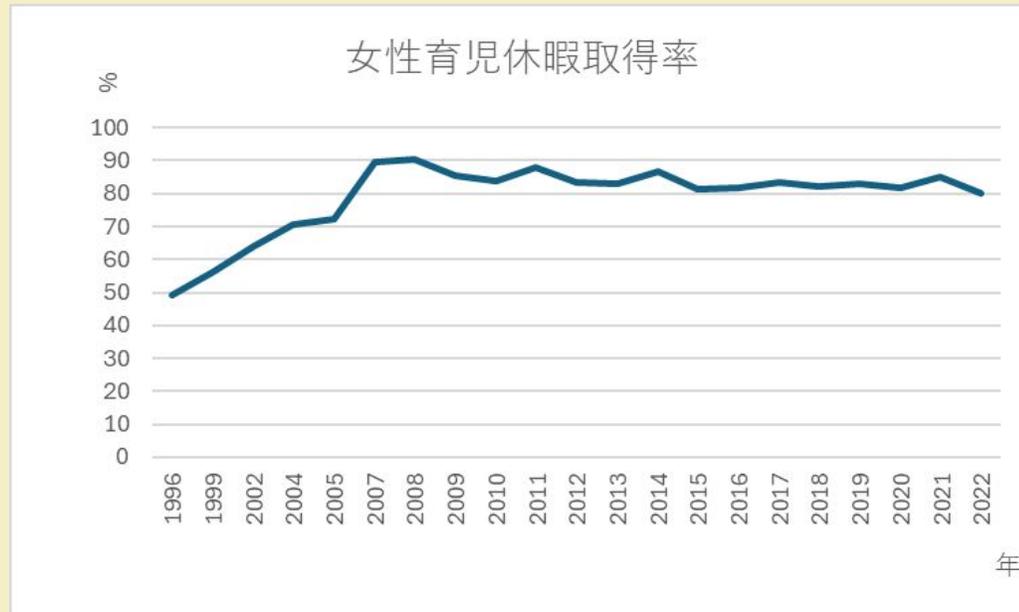
考えたライフプランと実社会をどうすり合わせるのかを考える教育を継続して行うことに留意する

## 改善案

未来体感ゲームを高学年、中学生と継続的に行う。  
高学年は、働くことの大切さと大変さの理解に重きを置いて教育を行う。  
中学生は、現実的探索と暫定的選択の時期であることに重きを置いて教育を行う。

# 指摘点

## 仕事と出産・育児の両立は難しいのではないか？



時代の変化によって、企業は育休・産休を男女問わず推奨しており、キャリアと子育ての両立ができる世の中になっている。

# 7. 結び

- 合計特殊出生率に影響を及ぼすキャリア教育を考案した。
- 小学校段階から各学年ごとのキャリア教育を実施することで、自分に合った仕事に就くために必要な能力や勤労観・家庭観・自己肯定感・自己有用感が養われ、合計特殊出生率に正の影響を及ぼすのではないかと考える。
- しかし人生の選択は、経験と出会いによって変化していくため、その時々で柔軟にキャリア教育を考えることに留意する。